

令和6年度 文京区立礪川小学校 授業改善推進プラン 〈3年生〉

	現状分析	具体的な授業改善策
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字の習得に課題が見られた。</li> <li>・自分の考えや思いを、学級全体の中で発言する児童に偏りが見られた。小グループでも、自分の考えを述べることができる児童に偏りがある。</li> <li>・物語文や説明文において、内容の大体を捉えることはできている。</li> <li>・自分の思いや考えを書く際に、適切な言葉を使って、相手に理解してもらう文章を書くことに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新出漢字を、様々な熟語で表したり宿題の練習量を増やしたりして定着を図る。</li> <li>・国語科の授業だけでなく、全ての授業時間において、ハンドサインを利用しながら自分の考えを表出する機会を設け、発表の抵抗感を減らすと共に、他の児童の考えや思いを、自分と比べながら聞けるようにする。</li> <li>・今後も、「どのような話か」という問いかけを行い、まとめられるよう促す。</li> <li>・語彙を増やす、時間をとる、話をしながら適切な言葉を見付ける等を指導の中で行っていく。書くことに対する苦手意識も高いため、意欲を高めたり持続させたりできるような授業展開を工夫する。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八方位、地図記号について、定着していない児童が半数近くいる。</li> <li>・「学校のまわり」「文京区の様子」「工場の仕事」「商店の仕事」について、「知識・理解」、「思考・判断・表現」どちらも学年平均到達率は高い。記述式の問題の無回答・誤答が若干多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・八方位、地図記号については、プリントや「ドリルパーク」などを活用し、繰り返し学習を行い定着を図る。</li> <li>・地域における社会的事象の特色や関連、意味を考えたりする学習について、丁寧に指導する。記述問題の無解答や誤答が多いので、ノートに考えを記述する経験を重ねる。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「時こくと時間のもとめ方」以外の単元の学年平均正答率は「知識・技能」、「思考・判断・表現」どちらも全国平均より高い。</li> <li>・各クラスとも5名程の児童は、かけ算九九が身に付いていない。</li> <li>・問題の意図が読み取れない児童が多いため、支援が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科や生活の中でも時間を意識させる。</li> <li>・正答率の低い問題については、朝のドリルタイム等で、繰り返し学習を行い定着を図る。</li> <li>・習熟度別少人数にクラスを分け、できるだけ個に応じた指導をしていく。</li> </ul>

<p>理科</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物や生き物に関しての興味や関心が高い。</li> <li>・観察や実験を楽しみにしているが、事象から思考することへと繋がっていない。</li> <li>・日常生活のことと結びつけながら考えることが難しい。</li> <li>・理科の正しい用語が定着していない。例)「子葉」を「ふたば」、「腹」を「おなか」など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に栽培・飼育をして、自分たちの生活と繋げながら学習をすすめるようにする。</li> <li>・「課題把握」→「予想」→「観察・実験」→「結果」→「考察」→「結論(まとめ)」という理科の学習の流れで授業展開する。</li> <li>・ノートの書き方例をプリントし、ノートに貼らせる。(いつでも見られるようにしておく)</li> <li>・用語の定着のために、授業中に強調する。プリント等で繰り返し学習を行う。</li> </ul>
<p>音楽</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱や器楽、鑑賞や音楽づくりの活動にすすんで取り組む姿が見られる。</li> <li>・リズムの模倣や、拍によって手拍子をしたり体全体を使って表現したりする活動を楽しんでいる。</li> <li>・自分なりの思いや考えをもち、それを表現しようとする事ができる。</li> <li>・リコーダーの学習に意欲的に取り組んでいる。運指や姿勢、タンギング等、教師の個別の声掛けが必要な場合もある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌を歌ったり曲を聴いたりする際には、体を動かしながら取り組む活動を多く取り入れ、旋律の特徴やリズムなどを感覚的に捉えられるようにする。</li> <li>・学習の流れやめあてについて、板書や掲示物を使用して共有しながら視覚的にも示していけるようにする。</li> <li>・リコーダーの指導では、電子黒板を活用し、視覚的に捉えながら、練習できるようにする</li> <li>・担任や講師と連携して、一人一人の児童の課題にあった細やかな支援ができるようにする。</li> </ul>
<p>図画工作</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手や体全体を使いながら表す活動に意欲的に取り組んでいる。また、友達と関わりながら活動することを好む。</li> <li>・活動をしながら新たなことを思い付き、活動を自ら広げていく姿が多く見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と関わりながら活動したり、相互鑑賞が自然と行えるようにしたりすることでより意欲的に取り組めるようにする。</li> <li>・試しながら表したり、次第に表したいことが明確になるような題材を多く取り入れたりし、自ら活動をつくっていけるように促す。</li> </ul>
<p>体育</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運動する楽しさを味わうことができる児童が多い。</li> <li>・苦手な技能を高めるためのめあてのもち方や振り返りの仕方に課題が見られる。</li> <li>・運動経験に偏りがある。様々な運動を通して、体力を高めていくことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に楽しく活動ができるように、その都度体育の決まりを確認する。自分たちでゲームのルールを考え、運動の楽しさを感じられるようにする。</li> <li>・授業の中で明確なめあてをもって取り組めるようにし、常に振り返りの時間を設けることで次時への課題がもてるようにする。</li> <li>・日々の授業、体育朝会、リズムなわとび等を通して、多様な運動に取り組ませていく。家庭とも連携し、日頃から家庭で運動をするこ</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールや勝ち負けへのこだわりが強い児童が多く見られる。</li> <li>・苦手意識が高い児童が見られるので基礎的な動きを取り入れることが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>とを働きかけていく。</li> <li>・試合等をする際には明確なルール提示と、勝敗について体育ではさほど重要ではないことを伝え、運動の楽しさに目を向けられるようにする。</li> <li>・簡単な動きを取り入れつつ、グループで楽しく活動できるように運動遊びを組み込みながら行う。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間における、道徳的価値について、自分なりの思いや考えをもつことができる。</li> <li>・自分自身を振り返ったり、自分の生活に関連付けて今後の言動を考へたりすることについては、具体案はその場では出るが、実際に結びつけることが難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳の時間だけでなく、教育活動全てを通して、様々な道徳的価値を取り上げ、考える機会を設ける。</li> <li>・道徳の授業の中で、自らに結び付けて考える時間を確保し、価値の理解だけに終わらないよう配慮する。また、自分事として考えられるよう授業の中や他教科で促していく。</li> </ul>
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期の早い段階からローマ字練習を開始し、さまざまな教科・学習場面でICTを活用した学習を計画・実施したことで、ICT活用技能が向上した。</li> <li>・地域環境、地域人材を活用した授業を展開したことで、地域への関心や学習意欲が高まった。</li> <li>・課題をグループで解決していく協働学習を行うことで、一人では困難な課題に対しても粘り強く、協力して解決する態度が身に付いてきた。</li> <li>・「発表」して終わりではなく、「評価」→「改善」も行うようにしたことで、よりよいものにしようと試行錯誤するようになった。</li> <li>・表現方法が少ない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、他教科でもICTを活用していく。</li> <li>・地域環境、人材の発掘、リストアップをし、積極的に活用する。</li> <li>・様々な表現方法に気付くことができるように、学習を計画していく。</li> </ul>
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ALTとのやり取りを楽しみながら、意欲的に活動する児童が多い。</li> <li>・自分の考えに自信をもって発言することに課題がある。</li> <li>・ALTから聞き取った単語や会話を繰り返して発音することに抵抗がある児童が少数見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語だけでなく、様々な言語に興味や関心がもてるよう、ALTとの触れ合いから外国への興味や関心に繋げていく。</li> <li>・発言しやすいように、ペアやグループでの学習形態の工夫・改善を図り、段階を押さえた指導をしていく。賞賛することで自信をもたせる。</li> <li>・児童が発音しやすいように、教員が率先して発声や声掛けを行い、恥ずかしさの克服や発音の仕方が分かるようにする。</li> </ul>